

令和2年度学校評価の結果をふまえた今後の改善方策

県立佐用高等学校

【今年度の学校評価の分析】

生徒・保護者・教職員とも、ほぼ全ての評価項目において昨年度より数値が向上した。しかし、今年度、コロナウィルス感染拡大の影響を受け、学期開始が遅れたこと、行事等教育活動に大幅な制限を受けたこと等により、本校の教育活動の大きな柱である「地域貢献活動」や「ボランティア活動」に関する評価項目が低下した。現在、次年度に向け、現状の中で最大限できる活動を計画中である。

今年度は、授業改善や資質向上に向け、授業評価アンケートや資質向上に向けた各種研修会を積極的に実施した結果、授業改善や資質向上に関する評価項目の評価が向上した。次年度も、この取組をさらに継続する。

【改善方策】

今年度の学校評価の結果を踏まえ、今後の改善方策として、次年度に以下の取組を実施する。

1 組織的な学校運営の推進

(1) 拡大学年団の配置について

拡大学年団配置上の工夫により「各部・学年・学科の連携を図り、校務分掌が組織的に機能している。」という評価項目の評価が改善されている。

令和3年度も拡大学年団配置に際して以下の工夫を継続する。

- ① 各学年の授業を担当している教員を優先的にその学年に配置する。
- ② 新入生の学校不適応に対処するため、1学年に保健部長、養護教諭を配置する。
- ③ 3学年に進路指導部長と昨年度の3学年担任及び教務部長を配置する。

※ 教員配置予定

	学年団	拡大学年団	合計
1学年	9	7	16
2学年	8	7	15
3学年	8	7	15

2 教員の資質向上について

今年度、授業評価アンケートを実施し、指導法の改善に取り組んだ結果、授業改善「魅力ある授業に向けた実践的指導力の向上に努めている。」という評価項目の評価が向上した。

また、資質向上に向けた各種研修を積極的に実施した結果、「学校の諸課題について校内研修を計画的に立案・実施し、専門性の向上を図る。」という評価項目の評価が大きく向上した。

そのことを受けて、令和3年は以下の取組を行う。

- (1) 授業評価アンケートを踏まえた分析と指導法の改善。
- (2) 公開授業や研究授業の活性化。
- (3) 教育研修所等が主催する、教員の資質向上に向けた各種研修会や発表会への積極的参加とそれを基にした校内研修会の推進、また、外部講師を招いての教員対象校内研修会の実施。特に、次年度は、タブレット端末を始めとする ICT 活用能力の向上を目指す。

3 地域の中学校の要望と生徒指導の視点を反映できる学校評議員の委嘱

平成30年3月で退職された地域の中学校長が佐用町青少年育成センターの経験を有していることから、令和3年度も継続して学校評議員に委嘱し、中学校の要望をより吸い上げるとともに生徒指導の視点からの意見を反映できる学校評議員会の委員構成とした。